

2013年8月22日（木）

『学び合い』に関する資料

都立新宿山吹高校 大野智久

①『学び合い』とはどのような考えか？

参考資料「『学び合い』の手引き書（11. 07. 17）」（上越教育大学 西川純先生）

基本的な考え方

- 「学校は、多様な人と折り合いをつけて自らの課題を達成する経験を通して、その有効性を実感し、より多くの方が自分の同僚であることを学ぶ場」であるという学校観
- 「子どもたちは有能である」という子ども観
- 「教師の仕事は、目標の設定、評価、環境の整備で、教授（子どもから見れば学習）は子どもに任せるべきだ」という授業観
- 上記を支える「一人も見捨てない」という願い

授業における教師の仕事

- 教師の仕事は、「目標の設定」、「教授（子どもから見れば学習）」、「評価」、「環境の整備」の4つ。
- 目標の設定、評価、環境の整備が仕事の中心である。
- 教授（子どもから見れば学習）は子どもに任せる部分が多い。

評価について

1、評価基準の開示

- ・今取り組んでいることに確信を持てることは重要。
- ・評価基準があいまいだと、学習意欲が低下する（何をどう頑張ったらよいのかわからない）

2、評価するのは過程ではなく結果

- ・あくまでも「目的」と「目標」の達成が重要であって、方法は何でもよい→評価対象にならない。
- ・結果はしっかりと評価する。

3、自分のための評価

- ・失敗したからといって罰があるわけではない。
- ・失敗したら、本来、自らが獲得出来る成果を失うだけ→困るのは教員ではなく生徒自身

環境の整備

- ・「他者」と繋がれることを保障する。
- ・子どもたちが話せる時間を保障し、教師が邪魔しなければよい。

「語り」の重要性

- 一人も見捨てない
- 全員が時間内に達成を目指す
- 「わかったつもり」→「本当にわかる」
- 人に説明することで「わかったつもり」が「本当にわかる」になる！
- わからないときに「わからない」と言えるのがすごいこと！

- 人から説明を受けることで、自分にとっての「ベストティーチャー」を探せる！
 - 全員ができないことについて個人が「責任」を持つ必要はないが、「関係」を持つ必要はある
- 取り組む生徒自身が今取り組んでいることに確信を持ち、前向きになれることが重要。
- 「語り」を入れるときは、個に対してではなく、全体に対して。
「ここ教えてあげてよ」「聞きにいかないとダメだよ」等はNG。
ただし、「達成度の可視化」はありうる。

自己判断・自己責任

- ・学びの方法は、生徒に任せる。ただし、結果は自分が責任を取る。
 - ・教員主導の授業→つまづき→「ちゃんと教えてくれない教師のせいだ！」→責任を自分以外に求める傾向
 - ・生徒主体の授業→つまづき→「どうしたらいいのだろうか？」→自分との対話、責任を自分以外に求めない。
- ※「先生が教えてくれないからいけないのだ」という生徒に対しては、今やっている「学び」の価値について語り続ける以外にない。
- e x) 給食の時間、静かに食べることを学級（むしろ学校）のルールにしている。何が問題か？

②『学び合い』に関する疑問

- 生徒にまかせると学力が低下する？
→そんなことはありません。
- 生徒だけで解決できなかった時はどうする？
→課題設定の見直し（教員）、取り組みの振り返り（生徒）、答えをどう提示するかも重要。
- コミュニケーションが苦手な子は「学び合い」はできない？
→大切なことは無理強いはしないこと。教員は価値を語り、そして生徒を信じる。
- 「学び合い」を必要としない生徒もいる？
→『学び合い』は方法ではなく考え方。この考え方は万人に必要。
- できない生徒がいるのに教員がサポートしないなんてありえない
→「知識のない愛に力はない」、これから先の人生は生徒自身が切り開いていくもの。

③『学び合い』の広がり、可能性

「学び合い」の考え方の応用可能性

高校の様々なアクティビティー（授業、部活動、行事、委員会 e t c...）は、基本的に生徒主体でやらせる。

教員の関わり方は、『学び合い』と同様。

- 放任、放置とは違う。「語り」が重要。価値を語り、共感を目指す。強要はしない。生徒に選ばせる。
- 軸となるのは「一人も見捨てない」という願い。
- 「人と関わることの価値」と「自己責任」への気付きも重要。
- 適切な「場」を与えてやる。これだけで生徒は「勝手に」学ぶことができる。